

私たちの手で支えあいの地域をつくる



あしたの会に相談してみませんか



●生活の中で小さな困りごとはありませんか

高齢者の一人暮らし世帯や高齢者夫婦のみの世帯、障がいがあるなどの理由で、

- ・ごみを捨てるのが大変
- ・ごみを捨てに行くとき、転んでしまった
- ・身の回りの簡単な作業が難しい
- ・家族や近隣に頼る人がおらず、「助けて」と気軽に言えない

など、家庭の中で解決できない困りごとが増え、その解決に悩んでいませんか。そんな時は、あしや助けあい・支えあいの会（通称「あしたの会」）に相談してみてください。

●「あしたの会」とは

あしたの会は、地域の会員同士で助け合うネットワークを作り、困りごとがある人を訪問し、必要であれば会員同士で助け合う団体です。

「協力会員」が「利用会員」を支援（サポート）するという仕組みで、身の回りの小さな困りごとを解決するために運営されています。

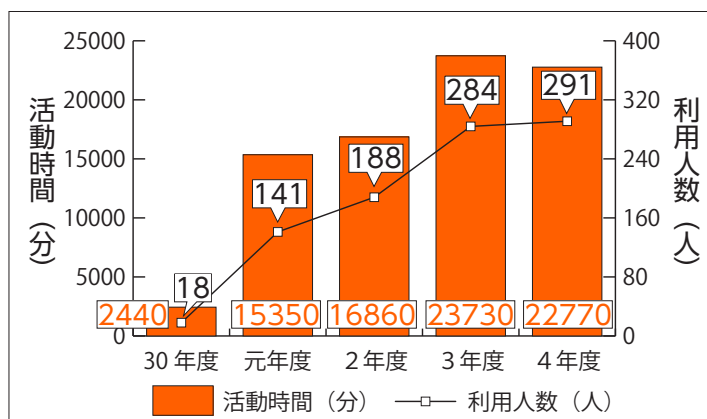
★サポートは1回当たり60分以内で、サポート料は10分100円です。

★年会費 協力会員・利用会員＝500円（60歳以上の協力会員は、年会費免除）

●あしたの会の活動経過

平成30年に発足し、今年で活動7年目になり、利用者数も活動時間も年々増加しています。

サポート内容としては、ゴミ出しが6割を占め、その他、室内の簡単な清掃、見守り活動、デイサービスの送り出し、草取りを行っています。最近では、話し相手などの依頼が増え、安否確認も兼ねた見守り活動を行っています。



●あしたの会の会員を募集しています

近年、サポートの数も増えてきており、協力会員の確保が大きな課題になっています。この会の活動は、利用会員を支える協力会員がいないと成り立ちません。また、会の活動に賛同し金銭的に支援する、賛助会員も募集していますので、ご協力をお願いします。

★年会費 賛助会員＝一口500円

▷会員加入やサポート利用などの問い合わせ

あしたの会事務局（福祉会館内）（☎222 - 2866）

芦屋歴史紀行

その三百三十五

ミシンと洋服
温かさと思い出と⑥

思い出に寄せて



△雑誌『装苑』の表紙
(1957年発行)

既製服を店で買うのが当たり前になったのは、そんなに昔のことではありません。

服は誂^{あつち}える(頼んで作ってもらう)ものだった時代。雑誌『装苑』(1936年創刊)や『ドレスメーカーキング』(1949年創刊)などといった「スタイルブック」から流行を知り、好みの布を布地屋さんで買

い求めたうえで、近所の仕立屋さんや洋裁のできる女性に頼んでお



△1950年代の家庭用ミシン

しやれな服を作ってもらうか、自分でミシンを踏むか、のどちらかでした。これが、昭和20(1945)年から40(1965)年ごろの普通のことでした。戦後のベビーブームのころに生まれた団塊世代の人なら、うなずかれる人も多いことでしょう。主体はあくまでも自分で、いつ着る服か、どんなデザインの服にするかも仕立てる人と発注者が話合っ



△1960年代の婦人服

しかし、グローバルマーケットの発展に伴って、服は地球上のどこかの工場で大量に作られるようになり、どこに行ってもみんな似た服を着ているようになりました。サイズも規格化され、それに自分を合わせることが当たり前となりました。どこか遠くで次々と大量に作られる服は、値段的には買いやすくなりましたが、誰が作ったのかを知ること

はなく、作る側と着る側のやりとりも全く失われました。服は消費するものとなり、必要以上にワードローブに掛かっていますが、一つ一つの服への愛着も薄れてしまいました。

このような成り行きは、人と衣服の関係にとって本当はいいことではないでしょう。しかし、高度経済成長期のきらびやかさの中で、ブランド信仰やイメージ消費、そしてファストファッションの隆盛といった形は、その歩みが止まることはありませんでした。2010年代に入ってから、特に、服飾業界全体の長引く不振もあり、停滞した現状の打開に向けたさまざまな試みが始まっています。

コットンフェアトレードや服作りの労働環境に目を向けたエシカル(倫理的)ファッション、素材のリサイクルや服のレンタル、中古服の再利用、ITの導入拡大による作り手と着る人の距離感……。どれも決め手となるのかということよりも、これらが新旧流行を繰り返しながら、時間をかけて融合し、新たな流れが生まれるのかもしれない。

(芦屋歴史の里)

編集後記

▼大谷翔平選手がついに、結婚してしまいました。8ページのまちのわだいで、大谷選手から全国の小学校にプレゼントされたグローブの記事が載っています。彼はコンディションを崩さないためにたくさん寝るようにしているそうなので、私も「春眠晩を覚えず」を合言葉に春を楽しみたいと思います。(野中)

▼現在、芦屋歴史の里では、特別展「ミシンと洋服(温かさと思い出)」が行われています。私の実家にも足踏みミシンがあり、子どもの頃ペダルを踏んで遊んでいたのを思い出します。特別展は、5月6日頃まで行っている

(手塚)

▼遠賀郡・中間市合同企画で各市町のイメージキャラクターたちがエクササイズをしています。4、5ページにある運動をするだけでも運動不足の私には刺激的で、体が温まります。数日続けると体の動きがよくなるのを実感できます(あくまで個人の感想です)。ただし、張り切りすぎるとだいたい体を痛めてしまいう頃なので調子に乗らないように気を付けています。皆さんもエクササイズを試してみてくださいね。

赤しそ梅酒をはじめとする各キャラクターのパワーの源、各市町の特産品もお忘れなく。

(那木)

